

令和4年度 シラバス

地歴公民

科目（ 日本史研究 ）

単位数	2 単位	学科・学年・学級	3年選択科目
教科書	「新日本史B」(山川出版社)	副教材等	日本史のライブラリー (東京法令出版)

1 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付ける。</li> <li>・現代の諸問題に着目して考察させることで、歴史的思考力を培う。</li> <li>・国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</li> </ul>
---

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
1 学 期	4	第4部 近代・現代 第10章 近代国家の成立	1. ペリー来航 江戸幕府の 滅亡 2. 新政府発足 殖産興業  3. 征韓論 自由民権運 動 期末考査	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アメリカ東インド艦隊のペリー司令官を中心に日本が開港した背景を学ぶ。</li> <li>・日米和親条約、日米修好通商条約の締結から長州藩・薩摩藩の動きを学ぶ。</li> <li>・戊辰戦争から江戸幕府滅亡の経緯を学ぶ。</li> <li>・大久保利通を中心に新政府の発足により版籍奉還・廃藩置県・秩禄処分地租改正を中心に中央集権国家の確立を学ぶ。</li> <li>・殖産興業で開業した工場が現代にも繋がることを学ぶ。</li> <li>・岩倉使節団が欧米の視察中におきた征韓論が使節団帰国後にどう繋がるか学ぶ。</li> <li>・江華島事件を踏まえ、征韓論派が武力と言論に分かれたことを理解し、板垣退助がおこなった運動を学ぶ。</li> </ul>	行動観察 ノートの書き込み グループワーク の取り組み 定期試験 行動観察 ノートの書き込み グループワーク の取り組み 定期試験
	5				
	6				
2 学 期	7	第11章 立憲国家の成立と 日清・日露戦争  第12章 大正デモクラシー と政党政治	1. 立憲体制の確立 2. 条約改正  4. 日清戦争 三国干渉 5. 日露戦争 韓国併合  1. 近代産業の発展と社会主義運動 2. 桂園時代 3. 第一次世界大戦 4. ロシア革命 パリ講和会議 5. 大正デモクラシー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国会開設への動きと自由民権運動の関わりを理解し、大久保利通が中心となって進めた国づくりを学ぶ。</li> <li>・ペリー来航により締結した条約を確認し、岩倉使節団がなぜ欧米へ渡ったのか学ぶ。</li> <li>・ノルマントン号事件や大津事件を踏まえ、当時の国際社会における日本の立ち位置を学ぶ。</li> <li>・朝鮮問題から日清戦争終戦により外国との関わりを学ぶ。</li> <li>・金玉均やチェンボンジュンなどを紹介し、当時の戦争の内容を学ぶ。</li> <li>・日清戦争から続いた経緯を理解して日露戦争が始まった経緯、終戦の影響を学ぶ。</li> <li>・東郷平八郎などの軍部で活躍した人物を取り上げ、戦争の内容を学ぶ。</li> <li>・産業革命の影響により、国内産業の発達が公害など現代にも繋がりを、社会主義の広まりを学ぶ。</li> <li>・田中正造や大逆事件など当時の社会運動に関わる人物・事件を学ぶ。</li> <li>・日露戦争後、日本の政治の変化を学ぶ。</li> <li>・第一次護憲運動などから国民の政治に対する意識の変化を学ぶ。</li> <li>・第一次世界大戦の原因から日本がどのように関わったのか学ぶ。</li> <li>・ロシア革命によるレーニンの台頭や社会主義国誕生による国際情勢の変化を学ぶ。</li> <li>・パリ講和会議の内容を学ぶ。</li> <li>・第一次世界大戦の影響から社会主義運動の高まりどんな運動となったのか、その頃の大衆文化の変化を学ぶ。</li> </ul>	行動観察 ノートの書き込み グループワーク の取り組み 定期試験
	9				
	10				
	10				
	11				

2 学 期	12	第13章 第二次世界大戦と 日本  第14章 占領と国際復帰  第15章 55年体制と高度 経済成長	1. 金融恐慌 世界恐慌  中間考査 2. 軍部の台頭 太平洋戦争  1. 日本の占領  2. 日本国憲法の 制定 3. 冷戦の激化 4. 日本の独立  1. 55年体制  期末考査	・連続した恐慌から外交の変化を学ぶ。  教科書p 284～313 ・世界恐慌の影響から日本がとった対策と外国の対策を比較しつ つ学ぶ。 ・第二次世界大戦からGHQによる占領が進められた経緯を学ぶ。 ・GHQの政策の内容について学ぶ。  ・日本国憲法に盛り込まれた内容から社会情勢の変化を学ぶ。 ・冷戦下の戦争の内容を学ぶ。 ・トルーマンやマーシャルの政策を学ぶ。 ・冷戦下の社会情勢からアメリカの意図を考察し、独立までの経緯 を学ぶ。  ・安保体制の締結や第三勢力の台頭から国内情勢の変化を学ぶ。  教科書p 314～340	行動観察 ノートの書き込み グループワーク の取り組み 定期試験
	3 学 期	1	第16章 冷戦の終了と55 年体制の崩壊  期末考査	2. 高度経済成長  1. 冷戦の終結  2. 55年体制の 崩壊  期末考査	・1950年の朝鮮戦争をひとつの起点として、日本が経済大国へと 成長していった経緯を学ぶ。  ・ソ連消滅での冷戦の終結、これによりおこった地域紛争を学ぶ。  ・自民党の野党転落やバブル経済の崩壊から国内情勢の変化を学 ぶ。 ・国際情勢の変化から行われた外交交渉を学ぶ。 ・阪神・淡路大震災や東日本大震災などの自然災害にも触れ、現在 の外交状況を学ぶ。  教科書p 341～359

### 3 評価の観点

関心・意欲・態度	歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養うことができる。
思考・判断・表現	地理的条件や世界の歴史と関連付けて学習を進めるとともに、現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、現代の諸課題に着目して考察できる。
観察・資料活用の 技 能	主体的に歴史学習を行い、歴史的思考力を育成するとともに、現代の日本と世界についての課題意識や思考力・判断力・判断力等を養おうする技能を身に付けている。
知 識 ・ 理 解	現代の社会やその諸課題が歴史的に形成されたものであるという観点から、現代の諸課題を理解し、対策のための知識や自身の意見を身に付けている。

### 4 評価の方法

関心・意欲・態度、思考・判断・表現、観察・資料活用の技能及び知識・理解の4観点から総合的に評価する。

### 5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるに当たって守って欲しい事項など）

- ・担当職員が説明している時は、しっかり聞く。
- ・テスト前に勉強しやすいように自身でノートづくりの工夫をする。